

留学体験記

台湾 静宜大学

私は、2023年9月4日から2024年1月10日まで台湾、静宜大学に一学期間交換留学をしました。今回は体験記ということで、留学に行くきっかけ、留学前の準備、出国から帰国まで、留学生生活を振り返って、の4点について紹介したいと思います。

まず、留学に行くきっかけは、中国語学科で勉強する中で語学力の向上に思い悩んでいたことと、実際に台湾文化を体験してみたいと思ったこと



清水区にある廟

からです。両親や先生に相談したところ、留学に行くことを勧められ、たくさんのことを学び体験しなきゃいけないと背中を押され留学を決めました。

留学前の準備としては、初めに募集要項のレベルに達するためにHSK（漢語水平考試）4級を取得、自分に合う学校探しをしました。私は台湾に留学がしたかったことと、中国語能力の向上を重視していたため、1週間に15時間の中国語学習時間が確保できる静宜大学に出席することにしました。出願した後は、面接や提出書類の準備に取り組み、余裕を持って提出することを心がけていました。

出国当日は同じ大学に留学する友人と二人で出国しました。私たちの大学は台中にあり、台北松山空港から静宜大学まで4時間近くかかりました。学校のピックアップサービスもありましたが、それ以前に入国したため利用せず自力で行くことになり、考えていたより大変でした。授業は1週間で中国語15時間とその他3科目を履修していました。留学先での学校生活は充実しており、同じ留学生や台湾人の友人もできました。授業は中国語で行われるため、最初は何もわからず苦労



台中の人気スポット宮原眼科のアイス

外国語学部 中国語学科3年 橋口京佳

することも多かったのですが、周りの友人が助けてくれ、徐々に慣れ授業も理解できるようになっていきました。また、毎日の課題と予習、復習はルームメイトが手伝ってくれました。私は学校内にある寮に住んでおり、台湾人3人と同部屋でした。私のルームメイトは中国語しか話すことができなかつたのですが、私のつたない中国語をしっかりと聞いてくれ、ゆっくりとわかるように話してくれました。私にとってルームメイトは中国語の先生でもあり大切な友人となりました。ルームメ

イトは毎日夜ご飯に誘ってくれ、公園や散歩に連れて行ってくれたり、たくさんのお話を教えてくれたりしました。このおかげで中国語が向上したと考えます。

また、静宜大学は留学生活動が充実しており、日帰り旅行や台湾の文化を体験するイベントがほぼ毎週末行われており、友人たちと興味のある活動によく参加していました。さらに日本語学科の活動が毎週水曜日にあったため参加していました。授業で同じグループになった台湾人の友人が主催者となり活動していたため積極的に誘ってくれ、その他のボランティア活動などさまざまな体験ができました。

台湾は物価が安いとされていますが、円安



静宜大学付近によく通ったお店の鴨肉飯

の影響によりさほど日本と変わらないと思います。しかし、食事は一食400円程度で食べることができ、ドリンクスタンドや夜市など台湾ならではの食文化を楽しむことができました。

一番の思い出は1月1日に台湾人と日本人の友人たちと台北101でカウントダウンに行ったことです。台湾は旧正月の春節が本番で1月1日は比較的落ち着いていると聞いていましたが、カウントダウンの花火は盛大で台北はたくさんの人で盛り上がっていました。

帰国の前は荷物をまとめるので忙しくしていましたが、その中でたくさんの友人がお別れを伝えてくれ、本当に良い友人たちと出会うことができたのだと思います。

この留学を振り返って語学力の向上



留学生活動の一環で行った日月潭

は、実際に台湾で生活することで普段から中国語を耳にできたことと、ルームメイトや台湾人の友人との会話で実践できたこと、中国語で中国語を学ぶことでより理解ができたことだと考えます。また、台湾文化をより深く理解できたことは、留学先の活動の豊富さや、ルームメイトが台湾ならではの文化を経験してほしいとたくさんのお話を聞かれました。私は留学以前、語学力の向上と台湾文化に触れることを目標にしていたため、充実した留学生活を送ることができたと考えます。これは台湾でできた友人たちのおかげだと思っています。

留学前までは楽しみと不安が入り交じっていましたが、実際に行ってみるとたくさんの人との出会いが私の留学生活を充実させてくれました。短い期間でしたがこの留学は一生忘れない経験になったと思います。留学について興味を持っている人は、先生や家族に相談してみても踏み出してみてもいいでしょうか。



台北101のカウントダウン